

# 日本山岳会 越後支部報

## 第 45 号

令和8年2月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 後藤 正弘

新潟県上越市新光町2丁目1-40

TEL・FAX 025-512-7561

広報委員長 諏訪 恵一



## 私の一枚

富嶽36景であり、富士五湖でお馴染みの山中湖からの富士山の夕景。

富士を見て大人になり四年前に新潟へ移住。素敵な山々に囲まれて居ますが久しぶりに富士山を眺め感動しました！

撮影者 川島 万里子

## 山と生きる人生を豊かに 越後支部八〇年の歴史に何をまなぶか!!

支部長 後藤 正弘

新年明けましておめでとうございませう。

昨年は、全国自然保護全国集会の妙高市開催や支部活性化プロジェクトなどに、多くの会員の皆さまにご協力いただきました。あらためて感謝申し上げます。

本年、越後支部は創立80周年を迎えます。戦後間もない1946年（昭和21年）藤島玄初代支部長によって、全国で関西支部に次ぐ二番目の支部として結成されました。

藤島玄氏は、子どもの頃に「家（新潟市中央区祝町）から見える山をみんな登る」と決意しました。新潟鉄工所社員その後著述業の傍ら、飯豊山開拓や「越後の山旅」の出版、越後の国境踏査（「越後山岳」第6号）や飯豊国体を指揮しました。また、新潟県山岳協会を結成するなど新潟県登山界発展のために多くの功績を残しました。

毎年行われている藤島蔵書研究会（代表：平田大六氏）報告会では、多様な人間像やエピソードが紹介されます。

強烈な個性で初心を貫き、飯豊山や越後の山々の地域研究に情熱を傾け、多くの山仲間にも恵まれました。越後支部長を34年務めた実績は、越後支部の歴史の核心と言えるでしょう。また、「越後山岳」は、これまで14号までで発刊され登山記録、山行紀行、随筆、地域研究、人物研究、山の動植物研究、

山の詩、短歌、俳句など登山文化の集大成となっています。個性的で真摯に山に向き合う会員は数多く、いずれも人間の魅力に溢れています。

私事で恐縮ですが、私の登山活動の原点となった冒険は、17歳の単独「能登半島一周サイクリング」（1969年8月7～15日の9日間）と18歳の単独（九州上陸まで二人）九州一周ヒッチハイク（1970年3月11～27日の17日間）です。この青年期の二つの経験は、その後の人生に大きな影響を与えました。未知の世界に、自分の力で挑戦することの大切さや高揚感、その達成感、そして美しい故郷の再認識でした。

本格的に登山を始めたのは4年後の1974年（昭和49年）22歳からです。地域山岳会に入会し岩登り、沢登り、冬山を経験しました。登山はバリエーションルートを登ることだと思っていました。年齢を経て仕事や家庭状況からしだいにバリエーションから遠ざかり、山スキーや縦走を楽しむようになりました。老年期に入り、山岳古道や登山道整備、森の手入れや子どもへの自然・環境教育、登山史などに興味をもっています。

時代や年齢と共に変化する登山活動ですが、山とともに人生を豊かに生きてきた先輩にまなび、会員が居心地のよい越後支部を模索したいと思っています。

# 日本山岳会創立百二十周年 式典・晩餐会に参加して

石津 智子

昨年12月6日、新宿・京王プラザホテルにおいて日本山岳会創立百二十周年記念式典・記念晩餐会が開催され、越後支部からは17名が出席しました。

この行事には天皇陛下が日本山岳会の会員のお一人としてご臨席され、陛下は穏やかな面持ちで、その様子から自然と心がなごみ、顔がほころんだのは私だけでしょうか。会場で私に声をかけてくださったご婦人も「陛下に一目会いたくて来たのです。」と満面の笑みをたたえていました。

晩餐会には全国からの会員をはじめ、来賓には英国大使や各国の友好登山団体などから約600人が出席されました。

記念講演会は2部構成で最初にヨッヘン・ヘムレブさんによる「エベレスト最大の謎、マロリーとアーピンの捜索40年」を講演され、次に重廣恒夫さんが「日本山岳会ヒマラヤ登山の歴史」を講演されました。両方とも大変興味深く、エベレスト初登頂

に関する探求心や山に魅せられ、山へのエネルギーと山に登らずにはいられない心情に共感しました。

記念式典では永年会員のお一人に越後支部の佐竹信幸さんが顕彰され、新入会員としては島伸一さんがそれぞれ陛下の前で紹介されました。

そして晩餐会では出席者が一斉に拍手で陛下と英国大使をお迎えして開宴となりました。鏡開きに用いられた福井の銘酒「四海王」で乾杯が行われ、美味しい料理のフルコースを堪能しました。

私はこの晩餐会に出席したことで日々を辛い、目標をいただき、人との繋がり、日常とは違う時間を会場のすべての人と共有できたことにより、今年一番の思い出となりました。山に登る動機は人それぞれで、動くのは自分の意志であり自己決定で広がる世界は未知数なんだなあとつくづく感じた機会となりました。

最後に、この晩餐会では本部の総務委員の皆様が中心になって運営されておられ、会員手作りの暖かいおもてなしを受け、ただただ感謝するばかりでした。

晩餐会の楽しかったひと時の余韻に浸り



越後支部の出席者



会場の様子

ながら夜の新宿を後にしました。皆様本当にありがとうございました。

## 令和7年度越後支部 年次晩餐会について

事務局長 玉木 大二朗

令和7年度の越後支部年次晩餐会が12月13日(土)、新潟市内・新潟東映ホテルにおいて開催され、会員・会友の45名が出席した。晩餐会では第一部の「画像で見える支部の活動状況」の紹介と第二部の懇親会が行われた。

例年、第一部では講演会を開催しているが、今回は趣向を変えて支部の7つの専門委員会(総務・事業・自然保護・広報・YOUTH・県山協・山行)、2つのプロジェクト(支部活性化・古道調査)、3つの同好会(スノートレッキング・フォトスケッチ・アルパインスキー)の各活動状況について画像を中心に紹介があった。



第一部 画像による支部活動の紹介

よる集合写真の撮影を行った。

第二部の懇

親会は石津智子総務委員の司会で進行され、最初に後

藤正弘支部長による主催者挨拶、本年ご逝去された会員への黙とう、来賓ご出席の新潟県山岳協会渡辺茂会長による祝辞、

乾杯は今年度支部名誉会員になられた田邊信行会員の御発声で懇談が開始された。



後藤支部長挨拶



出席者による集合写真

また、懇談途中には桐生恒治前副会長から最近の日本山岳会の動向について報告があり、更には、本年度新たに永年会員になられた佐竹信幸会員の紹介、新入会員の山森由枝会員の紹介がされた。懇親会はあるという間に経過し名残惜しい中、松井潤次副支部長の閉会の挨拶により全ての行事を終了した。

晩餐会の運営スタッフをしていたいただいた総務委員、和やかに懇親を盛り上げていただいたテーブルマスターの皆様には紙面をお借りし改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

次年度の晩餐会は令和8年12月12日(土)の予定であり、支部会員・会友の皆様は個人の年間スケジュールに組み入れて

岳風景がきれいだった。自分も行きたくなった。」との感想があった。  
第一部と第二部の間に、鈴木勝利会員に



いただき、ご出席していただくようお願い申し上げます。

## ヤマテン代表 山岳気象予報士 猪熊隆之氏による 「山岳気象セミナー」参加報告

原 渉

2025年11月22、23日の二日間に渡り開催された、越後支部主催「山岳気象セミナー」に参加いたしましたので、ご報告いたします。

なお、本セミナーは支部活性化プロジェクトの一環として開催され、次世代のリーダーを育成することをコンセプトとしております。

山岳地帯の天気は、平地のそれとは異なります。地形の影響が大きいです。通常、我々が見聞きする天気予報は平地におけるものであり、そのまま山頂に当てはめる事は出来ない。

山岳地帯の天気を予測するには、山一つ一つについて、地形の影響をつぶさに計算する必要があります、これは現代のコンピューターでも出来ないに不可能で、地形をよく知る山岳気象予報士でしか予測できないのが現状です。今回は、山岳気象を予測する知識の一部をご教授頂きました。



気象セミナー会場の様子



フィールド講習へ向かう

た。

詳細は割愛いたしますが、

気象は物理現象であり、必ず理由・原因があり、この部分を知ることが予測が可能になる。理系出身の自分は、何とかついていけましたが、なかなか専門性は高かったです。

ただし、猪熊講師の説明は、物理用語をほぼ使わず、誰でもが理解しやすい言葉に置き換えて説明頂いたので、「ふーん、そうか」と誰でもが覚えて帰ることが出来たと思います。

一例を挙げますと「やる気のある雲に注意」です。雨が降るには雲が必要です。ところが、どんな雲でも雨を降らすわけではない。雨を降らす雲が「やる気のある雲」であり、雨が降るのは「雲がやる気を出すから」と教えていただきました。

物理的には湿度を含んだ空気が存在した時、それが何らかの理由（それこそ地形の影響）による気流で上昇し、気圧の低下に伴う断熱膨張によって飽和水蒸気量が低下する状態の事だと思っておりますが、それを一言で表しておられました。

なお、この「やる気のある雲」は目視で



気象セミナー投影資料

見分けられます。幸いにも、佐渡沖の気圧の谷の影響で発生した「やる気のある雲」を、二日目の観天望気で観察できました。



講師との交流会

## 地域の山

戸倉山（とくらやま）  
（975.5m）

鶴本 修一

糸魚川市は、ユネスコ世界ジオパークの認定地（2009年）として、市内24エリアを特色あるジオサイトとして指定しています。なかでも四季を通じて人気を博しているのがジオサイトNo.12の根知・戸倉山山域です。その魅力のいくつかを紹介しましょう。

### 〈大断層帯の境界に位置する戸倉山〉

姫川は、日本列島を地質的に東西に分断するフォッサマグナの西端を成す糸魚川―静岡構造線（糸静線）に沿うように流れています。戸倉山の西側直下には姫川が…。

姫川以西の山々は古生代や中生代の地層から成り、飛騨変成岩帯では角閃石、蛇紋岩などの変成岩とヒスイなどの希少鉱物の産出が特徴です。また、明星山と黒姫山一帯は石灰岩から成り、黒姫山一帯は大規模なドリリーが点在するカルスト地形が有名。一方、姫川以东は新生代の地層から成り、山々の様相などは、姫川以西とは大きく異



山頂から東方面を望む：  
西海谷三山・焼山・雨飾山

なっています。海谷溪谷などでは、かつて海底で堆積された砂岩や泥岩の互層から成る急崖を。そして、今でも水蒸気を上げる早川上流の新潟・焼山の裾野では、大規模な火砕流と土石流の痕跡、能生川の下流域では海底火山の痕跡などが観察できます。

戸倉山は、糸静線の境界に位置する特別な山として、東西の悠久の大地・地形を見比べることができる絶好の展望地です。

### 〈戸倉山の自然と登山の楽しみ〉

登山口は、しる池の森・駐車場（大久保）。しる池からは「塩の道」（国指定遺跡）古道をたどり、角間池周辺のブナ林を経て尾根を登って山頂へ。往路約90分のコースタイムで、気軽に登山を楽しむことができます。

○白池・断層上にできた池。池の水が白く濁り（流紋岩起源の粘土層が地下に堆積）、季節により神秘的な色を表出します。水面に西海谷山塊や雨飾山が映り、周囲の樹木なども一段と映えて、撮影や休憩地に。池にはルリイトトンボなど絶滅危惧種を含む貴重なトンボが生息します。東屋の隣接地にはボッカ宿跡があり、戸倉山雪崩で21名が犠牲になった災害が紹介されています。





山頂から南西方面を遠望：  
北ア北部の名峰が一望

○角間池周辺のブナ林・市の木はブナ。芽吹き、新緑、紅葉、落葉、新雪、樹氷、根開きなど、四季を通じて木々の生命力や豊かさ、癒しを体感しながら、野生動物との共生や食物連鎖などの学びができます。

○尾根から山頂へ…短いコースですが、春には花々が競って咲きます。マンサク、イワウチワ、イワナシ、イワカガミ、タムシバ、ミツバツツジ、ユキツバキなどが、次から次へと光彩を放っています。

○山頂からの360度の大展望…糸静線を境にして南西には、南から小蓮華山・白馬岳・雪倉岳・朝日岳・長梅山の高峰。さらに県境稜線(梅海新道)が犬ヶ岳へ連なり、手前には黒姫山・明星山。東側には西海谷三山・焼山・雨飾山の名峰が圧巻です。北方には紺碧に広がる日本海が見え、時には佐渡も視界に入る大展望を満喫できます。

厳冬期から早春までのシーズンは、スノーシューの登山や花を愛でる散策を存分に愉しむことができます。お出かけ下さい。

以下、周辺の主な見学地としては：

▲塩の道資料館 ▲フォッサマグナパーク ▲砂岩泥岩互層露頭 ▲塩の道温泉など

## 日本山岳会自然保護 全国集会の感想

自然保護委員長 春日 良樹

自然保護全国集会は、日本山岳会自然保護委員会60周年、妙高市市制施行20周年、妙高戸隠連山国立公園指定10周年を記念し、「新潟の山々の自然とライチョウ保全活動」をテーマに妙高高原メッセで開催された。一般市民にも開かれた会にしたこと、各支部の発表をポスターにしたこと、妙高市と「共催」で実施したことが本年度の特徴である。

10月18日の講演会(小林篤氏、萩原浩司氏)では、会員・市民220名が参集(妙高市発表)。翌19日のフィールドスタディ(笹ヶ峰夢見平)では、会員55名が参加。多くの皆様が妙高の自然について学び親しむ機会となった。

今回の企画は、後藤支部長が「自然保護全国集会を妙高で開催したい」と提案したことに始まる。「そりゃあ無理、当会は年寄ばかりで実働人員不足、さらに資金も不



講演会の様子

足」と即答。続けて「本部主催の会である。本部で統括し、人員や資金を提供するのであれば、やりましょう」と回答。

「火打山のライチョウ保全や笹ヶ峰オオハンゴンソウ駆除をテーマにすれば、本集会の趣旨に叶う」と話したのを覚えている。越後と東京本部、メールやZoomのやり取りに不慣れで意思疎通や情報共有がうまくいかず、アタフタする場面も多々あったが、前述のように盛会を迎えたのである。従来とは異なる企画であったことから、幾つかの課題も生まれた。

①本部委員会の意思決定には時間を要し、経費の市議会承認に間に合わず助成額が減少する結果となり残念であった。

②本部・市担当と支部の間で、認識にズレが生じ混乱することがあった。準備後半では、細々とした事柄までメール配信され、情報過多で一層混乱することも生じた。「船頭多くして、船山に登る」では困りもの。企画当初に、全体の工程表を作成・共有し、



フィールドワーク参加者

進捗を確かめながら進める取り組みが必要だった。

③開催支部への予算配分があつてよい。担当者には、何回も視察やチラシ配布で尽力いただいたが、ガソリン代程度は補助したい。田舎ほど車社会で、1回の視察で200km超の移動距離がある。全て無償ボランティアでは持続性がない。

④移動には会員の車を使用した。同乗者保険の有無など問題も多い。公共交通や貸切バスなどの利用を検討したい。

開催までの1年間、紆余曲折を経ながらも、本部自然保護委員会・妙高市による共催の意図が見事に具現された会となった。ご参集くださった多くの市民の皆様へ御礼申し上げるとともに、開催に尽力いただいた会員の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

## 中部ブロック4支部交流会 参加報告

松井 潤次

2025年10月4日～5日の2日間にわたり静岡支部主催で第12回中部ブロック4支部交流会が開催されました。

この行事は2011年7月に第1回目(越後支部主催)が始まり、途中コロナ禍により中断もありましたが、今回は静岡県伊豆半島に多くの会員が集まりました。フォッサマグナ、いわゆる糸―静構造線の走る越後(新潟)・信濃(長野)・山梨・静岡の4支部持ち回りで開催されています。今回の参加者は男性30名女性22名の計52名、越後支部からは後藤支部長をはじめ佐藤レイ子会員、茂野伸行会員、松井の4名が参加しました。

一日目は伊豆長岡温泉おとり荘にて





稜線歩道

記念講演が二題あり、Mr.富士山による富士山登頂回数2232回達成までの経緯、またk2に逝った稀代のクライマー平出和也氏・中島健郎氏に関するものといずれも静岡支部会員から講演があり、興味深く聴講しました。

そして名湯に浸かってから交流会が始まりました。支部毎に参加者紹介、活動報告がなされ、心づくしの美味しい料理や持ち寄った銘酒を堪能し、盛会となりました。

二日目は記念山行です。会場の伊豆山稜線歩道は天城峠から達磨山まで伊豆半島中央部の稜線を辿る山域です。すべて踏破するには2日間ほど要すロングトレイルです。今回はその一部を歩きました。2コースが選択でき越後支部4名はAコースを歩きました。コースは西伊豆スカイラインに沿っており、土肥駐車場から戸田峠へ約6km北上します。標高差は250m程度ですが、アップダウンと階段で結構足に負担がかかりました。当日は晴天となり駿河湾や伊豆の山並みをパノラマで展望しながら背丈ほどある笹藪につけられた縦走路を進みます。



戸田峠集合写真

## アルパインスキー同好会 初滑りと総会

石井 和春

令和7年12月25〜26日に奥只見丸山スキー場（宿泊は須原の民宿「浦新」）にて

アルパインスキー同好会の総会と今期の初滑りを行った。

参加メンバーは、井口礼子、石津智子、伊藤直、江口健、小野寺昭彦、桑原一雄、後藤正弘、茂野伸行、田辺忠史、玉木大二郎、廣井博行、松本潔、石井和春の13名。

### 12月25日（木）曇のち霧雨

当初予定された須原スキー場は、雪不足でオープン不可のため、奥只見丸山スキー場に変更。

山頂ペアリフト降り場に9時50分集合。須原スキースクールをレベルに応じて3グループに分けて、10時レッスン開始。

午前中2時間実施。お昼は、ブナ平ヒュッテの食堂で、昼食休憩1時間。

午後は、13時から2時間実施だが、霧雨で、ウェアがびちょびちょ、どうにも不快。気温が高いので、雨具のほうがいい感じだった。レッスン終了後、須原の民宿「浦新」に移動。

17時から18時まで、総会と後藤支部長による雪崩研修会を実施し、総会では、同好会会長が廣井さんから小野寺さんに交代しました。1月の東谷山は県山協の新年会と重なり中止とした。

翌日が悪天予想のため、スキースクール実施可否について、意見が合わないことがあったが、一人の欠員で、スキースクール中止との小野寺さんの発言により、辞退しづらい雰囲気となり、



総会の様子



1日目のレッスン

折衷案として、午前中までスクール参加し、帰宅したい人は午前中で帰ることにし、スクール料金は全員1日分支払うことで合意した。

18時半くらいから、親睦会と夕食会になり、豪華な夕食に舌鼓を打ちつつ、順番に自己紹介が行われ、和やかな雰囲気の中に、2時間があっという間に過ぎた。

飲み足りない人は、その後、宴会部屋で夜遅くまで談笑していた模様。

太った天然岩魚の塩焼は、美味しかった。ただ、私の岩魚が他の人に比べて小さく感じたのは、気のせいかな？



宴会の岩魚の塩焼きは美味かった



懇親会の様子

12月26日(金) 雪

天気予報で大雪予報となっていたので、スクール時間を1時間早め、早く帰れるようにした。

第1リフトだけを使って、スキースクールの9時に開始した。雪も強く降り、視界が良くない中でのレッスンだった。午前は11時で終了。帰りを選択したのは私と後藤支部長含め4名ほど。

帰路は、魚沼の辺りまでは結構雪が積もっていたが、小千谷辺りから、雪も積もっていなかったため、安全に帰宅できた。

こういう、お泊りの宴会でないと皆さんと親密に交流できないので、スクールはさっておき、良いイベントであったと思った。まだ名前と顔が一致していませんが。



参加メンバーで記念撮影

## 広報委員会からのご案内

広報委員会

### ○越後支部ホームページについて

越後支部ホームページを昨年リニューアルしましたが、まだ利用実績が少ないため、検索サイトで「日本山岳会越後支部」と検索すると旧ホームページが先に表示されています。

そのページにホームページが変更になったことを案内していますが、新しくなった越後支部ホームページのアドレスを直接入力していただくようお願いいたします。なお、新しいアドレスは次の通りです。

<https://shibuijcl.or.jp/echigo/>

また、紙面に表示されているQRコードをスマートフォンで読み取ることでもホームページの閲覧が可能です。ぜひご利用ください。



### ○越後支部メンバーリストについて

前号でもご案内いたしました。越後支部では支部ホームページが更新された際のご案内や緊急なお知らせをメンバーリスト(メールの一斉配信)にて登録された方全員にメールを送りしております。

メンバーリストに登録を希望される方は事務局宛にメールにて「メンバーリスト登録希望」とご連絡ください。

折り返し登録確認のメールが届きますので、登録承認の操作をしていただくことで、メンバーリストに登録され、お知らせのメールが配信されますので、ぜひご利用ください。

なお、確認メールはグーグルから送られますので、見落としのないよう、また、まれに迷惑メールと判断される場合がありますので、登録依頼後は注意をお願いいたします。

また、事務局のメールアドレスは次の通りです。

[ecg-info@jacmember.com](mailto:ecg-info@jacmember.com)

スマートフォンでご利用の場合は紙面に表示されているQRコードを読み取ることでもメールの発信画面が表示されます。



## 原稿締切案内

越後山岳15号の原稿締め切りが令和8年3月末となっています。提出方よろしく願います。

越後山岳15号

編集委員長 遠藤 家之進正和

## 事務局からのお知らせ

### ●支部会員動向(令和7年9月〜12月)

#### 1 新入会友

杉田 和美(会員番号16494)

#### 2 退会会員

金子 泉(会員番号5946)

支部のみ退会、会員は継続

志田 貴美子(会員番号17309)

#### 3 支部会員数(令和7年9月4日現在)

支部会員(準会員含む) 138名

支部会友 9名

### ●冊子「引き継ぎ山岳祭」の有償頒布について

日本山岳会ではこの度全国で開催されている14の山岳祭の概要をまとめた冊子を作製した。A5版サイズ、143ページにわたり「山岳祭の歴史」、日本山岳会に関わる会員や登山開拓者「11人の物語」、「座談会」の3章による構成となっている。



「山岳祭の歴史」には山崎幸和支部名誉会員が高頭祭の歴史を、「11人の物語」には桐生恒治支部顧問が日本山岳会第2代会長高頭仁兵衛について執筆された。また座談会には桐生顧問が参加した様子が掲載されている。

支部では6部を購入し一冊500円で有償頒布している。

購入・問合せ先・事務局長まで

〒950-1134

新潟市江南区天野1丁目15-8

玉木大二朗方 日本山岳会越後支部

携帯電話・090-8723-4480

## 編集後記

豪雪お見舞い申し上げます。

3か月予報や1か月予報が発表されるたびに気温も降水量も変わり、この先、雪の量はどうか定まらない予報に一喜一憂していたら、止む間もなく降り続く雪でたちまち交通に障害が出たり、雪下ろしの準備を始めたりと慌てることとなった。

また、満腹にならないからなのか、普段は冬眠しているであろう熊が身近な街で出没し、ニュースになっている。里での生活で生まれた子熊は冬眠を学習できていないとも聞く。

人間の行動で自然が変わり、変化も読み辛くなり、新たな対応にも迫られるのだらう。

変化に順応しながら、これからも山を自然を楽しみたいものだ。

(諏訪 恵一)

